

シラバス参照

履修年度	2020
担当教員	遠藤 元
連番	11500063501
曜日・時限・開講期	月曜日 4時限 前期
期間	前期
授業形態	講義
分野系列	地域研究科目
学年	2年生
単位	2
講義名	東南アジア地域研究3(東南アジア経済とグローバル化)
開講キャンパス	東松山
備考	https://www.daito.ac.jp/information/open/college/numbering/list.html
最終更新日	2019/12/23 11:33

授業の概要 (Outline of course)	東南アジアは、東アジア諸国をはじめ国際経済との強い関わりのなかで近年目覚ましい経済成長を遂げてきた。この講義では、そうした東南アジアの経済発展の過程とその要因について、おもに経済のグローバル化の観点から考察する。講義では、「どのような」という経済状況の説明だけでなく、「どうして(そうなったのか)」という事柄の要因や理由の説明に力を入れる。経済用語を使用する場合は、その言葉の説明も丁寧に行うので、経済学に苦手意識を持つ人も恐れず受講してもらいたい。		
授業の到達目標 (Attainment targets of Course)	(1) 東南アジア経済の現状を解説できる。 (2) 東南アジア地域の多様性と共通性を解説できる。		
授業の形態 (Course method)	毎回、講義の初めにその日の課題を提示し、講義の最後にその課題に対して小レポート方式で回答してもらう。採点済みの小レポートを次回の講義の最初に返却し、前回の講義を簡単に振り返る。このようにして、通常の一方向的講義ではなく、双方向的な授業になるように努める。		
授業計画 (Class schedule)	回数	授業内容	担当教員
	第1回(Day 1)	ガイダンス: 講義のねらい	遠藤元
	第2回(Day 2)	東南アジア経済の特徴	遠藤元
	第3回(Day 3)	東南アジア経済史の概観(1)	遠藤元
	第4回(Day 4)	東南アジア経済史の概観(2)	遠藤元
	第5回(Day 5)	貿易	遠藤元
	第6回(Day 6)	直接投資(1)	遠藤元
	第7回(Day 7)	直接投資(2)	遠藤元
	第8回(Day 8)	直接投資と企業内貿易・産業内貿易	遠藤元
	第9回(Day 9)	国際労働力移動	遠藤元
	第10回(Day 10)	1997年の通貨・金融危機(1)	遠藤元
	第11回(Day 11)	1997年の通貨・金融危機(2)	遠藤元
	第12回(Day 12)	1997年の通貨・金融危機(3)	遠藤元

	第13回 (Day 13)	中所得国の罫	遠藤元
	第14回 (Day 14)	地域経済統合と東南アジア	遠藤元
	第15回 (Day 15)	まとめ	遠藤元
授業外の学習 (Way of self-study)	新聞やテレビのニュースなどを通じて、毎日、東南アジアの経済社会の動きを把握しておく。		
教科書 (Textbooks)	特定のテキストは使用せず、講義のテーマごとに関連資料を配布する。		
参考文献など (Books for reference)	大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣、1997年 末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会、2000年		
成績評価の方法・基準 (Assessment procedures and Standards for Academic results)	評価方法	割合	評価基準
	筆記試験	50 %	期末試験の結果
	実技評価	0 %	なし
	レポート評価	0 %	なし
	平常点評価	50 %	毎回授業中に課す小レポートの内容
	その他	0 %	なし
履修上の注意 (Important notes for applying to the course)	各回の講義内容は互いに関連しあうので、毎回欠かさずに出席すること。また、「東南アジア地域研究4(東南アジアの暮らしと経済)」も履修することが望ましい。		
連絡先・連絡方法など (Contact information/ way to contact)	研究室: 東松山校舎第2研究棟4階437号室		
その他 (Others)	一般に考えられている以上に、日本と東南アジアの経済関係は広く深い。この講義をはじめ、新聞やテレビなどメディアを通じて、東南アジアの今の動きに関心をもってほしい。		
画像 (image)			
添付ファイル (File)			